

発見! おごおり遺産

No.5 旅の道しるべ

前回まで、市内を走るさまざまな道を取り上げました。
今回は、江戸時代以降の旅人が頼りにした追分石を紹介おいわけいしします。



小郡中町①に残る追分石と「飛行場」の文字



本文中に登場する追分石①～⑦

多

くの人々が旅に出るようになったのは江戸時代以降です。例えば、大名の参勤交代、諸藩の武家の公用旅などはもちろん、修験者の旅、一般の人々の家業の旅や寺社参詣の旅などがあります。寺社参詣の旅は伊勢参りや善光寺参詣など有名ですが、この辺りでは彦山参りが流行しました。

この旅に欠かせないのが、人々を目的地に導く道しるべです。当時は歩きでの旅でしたが、ナビはもちろん現在のような地図もありません。別れ道に建てられた「追分石」は、人々の安全・安心な旅に欠かせないものでした。

市内には、明治から大正に建てられた追分石が数多く残されています。今回は、その一部を紹介しましょう。

小郡中町の交差点①に追分石があります。「大原古戦場東八丁」の文字や、矢印とともに「大板井 松崎 飛行場」「甘木三里 大保 稻吉」「田代」といった地名が見えます。「飛行場」の文字があることから、大刀洗飛行場ができた大正8年(1919)以降に建てられたことが分かります。なお、矢印の方向から考えると、もとは180度逆向き

に据えられていたようです。この場所は、彦山道と寺福童、端間方面へと続く道との重要な分岐点でした。

大崎七夕神社前②の旧筑前街道と彦山道との交差点にも追分石があります。「松崎」「古飯」などの地名とともに、これにも「飛行場」の名前があり、建てられた時期が分かります。

同じ旧筑前街道の横隈宿北枳形③には、大正の終わりから昭和初期に建てられた追分石があります。各面には方向を示す指印とともに、「津古 原田 二日市道」「乙隈 四三島 甘木 秋月道」などの地名が見られます。

薩摩街道沿いには、下岩田④に明治44年(1911)に建てられた追分石があります。各面には「南至 北野 久留米 御井町」「西至 小郡 田代」「北至 二日市 博多」「東至 松崎 甘木 山家」と刻まれ、建てられたころは、まだこの道が重要な交通ルートであったことを想像させます。

その他、花立山麓⑤、干潟⑥、吹上⑦などにも追分石があります。石を見つめる旅人の姿が浮かんできますね。

問合せ先 文化財課 ☎75・7555

おごおり遺産とは?》》近年の市内調査で「再発見」した文化遺産＝市民のたからのこと